

## 大会テーマ

# 評価制度で現場は どうかわってきたか

認証評価制度の法的義務化(2004年)から今年6年目を迎えました。現行の評価制度および具体的な評価の取り組みにおける問題点が明らかとなりつつあります。現時点で、教育・研究および大学運営の「現場(足元)」で何が起きているのか、具体的な検証を行うべき時期であると考えます。こうした視点から、本大会のテーマを「評価制度で現場はどう変わってきたか」とします。

日時:2010年3月13日(土)9:30受付開始  
～3月14日(日)17:00終了

場所:東京国際大学・早稲田キャンパス  
(新宿区早稲田2-6-1、地下鉄東西線・早稲田駅下車約5分)

参加費:会 員 1500円(院生等会員1000円)  
会員外 3000円(※事前申し込み不要)  
懇親会費 4000円(院生等2000円)

<大会連絡先>

第7回全国大会実行委員会 委員長 林尚毅(東京国際大学)

E-mail: nhayashi@tiu.ac.jp

<大学評価学会共同事務局(事務連絡先は龍谷大学)>

〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 大阪大学・大学教育実践センター

望月研究室:E-mail: taromoch@cep.osaka-u.ac.jp

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学経営学部重本研究室

電話:075(645)8630(重本) or 8634(細川)

E-mail: sigemoto@biz.ryukoku.ac.jp



**3月13日(土)**

**10:00～12:15 自由論題セッション**

**第1セッション(2階203教室)**

- 1) 福島一彦氏(関西外国語大学)「大学評価機関による大学自己申告資料・情報に対する批判的検証の必要性—ケーススタディに基づく大学評価の信憑性確保にむけた提案—」
- 2) 細川孝氏(龍谷大学)「新教育基本法・教育振興基本計画のもとでの大学評価—龍谷大学における事例を踏まえての若干の考察—」
- 3) 衣川清子氏(埼玉女子短期大学)「教員の身分保障と大学評価」

**第2セッション(2階205教室)**

- 1) 杉本篤史氏(東京国際大学)「大学教育としての海外体験学習の可能性と課題—東京国際大学国際関係学部取り組みから—」
- 2) 岩崎保道氏(同志社大学大学院修了生)「国立大学における教員評価の現状と課題」
- 3) 重本直利氏(龍谷大学)「『評価の客観性』に関する諸問題」

**12:15～13:30 昼食休憩(第Ⅲ期 第8回理事会)**

**13:30～14:20 第7回 会員総会(5階ホール)**

**14:30～18:00 シンポジウム(5階ホール)**

**「評価制度で現場はどうかわって来たか」**

**<シンポジスト>**

- 1) 「大学自治解体状況と自治的評価制度構築への試み」  
永岑三千輝氏(横浜市立大学)
- 2) 「大学評価・個人評価とFD」 橋本勝氏(岡山大学)
- 3) 「学問の自由と第三者による大学評価」  
平井孝治氏(立命館大学)

**<司会> 中村征樹氏(大阪大学)**

**<コメンテーター> 望月太郎氏(大阪大学)**

**18:15～20:00 懇親会(1階ラウンジ)**

3月14日(日)

10:00 ~ 12:30 分科会(午前の部)

**第1分科会 座長:塩野博雄氏(立教大学)(2階205教室)****「職員と教員の協働とその評価の方法——『事務職員』を超えて!——」**

&lt;趣旨&gt;

1990年代からの大学職員アドミニストレータ論は、従来からある役割分担論における職員の役割の範囲を管理運営から経営に広げようということにあり、結果として経営教学二分論としての教職役割分担的協働論に止まっていたとの見方もできます。他の学会(大学教育学会)でも職員の能力開発や教職協働といったことが議論されてきています。また各大学では従来から多様な教職協働が行われていたと考えられます。しかし、その議論には、教職を横断した職務を担う新たな教育職員としての大学職員ということへの言及は見られても、そのような職員をどのように評価するのか、何を評価するのかといった視点を欠いているようです。一方でこのような議論が見られることは、教学面での教職協働論への方向を示すものと捉えることができます。そこで一般的な職員アドミニストレータ論ではない、学生を主役とした学習支援者としての教職協働という視点・方向とともに成果主義的目標管理による人事考課とは一線を画した評価を考えたいと思います。そこで次にあげた6つの視点を踏まえて、2名の職員と1名の教員の方から報告を頂き、新たな教職協働の内容や可能性、評価のあり方などについて議論したいと思います。①職員の役割と内容、②必要な能力と育成・研修、③その評価基準・水準、④現行の職員は事務方・決定事項の執行という役割分担ではない、新たな「協働・共働」のありかた(新たな共働が可能かということを含めて)、⑤現在担っている実務での新たな協働の必要性・可能性、⑥その他言及しておきたいこと。

- 1) 土山晶子氏(京都経済短期大学)「教職協働—その基盤となる職員力と関係性構築力—」
- 2) 田村麻衣子氏(明治学院大学)「発展途上の教職協働—現場中堅職員の視点から—」
- 3) 蔵原清人氏(工学院大学)「『教職協働』をどう考えるか—ユネスコの高等教育の教育職員の地位に関する勧告を手がかりに—」

**第2分科会 座長:海部宣男氏(放送大学)(5階ホール)****「大学評価が研究に及ぼしてきた影響と研究評価の方向」**

&lt;趣旨&gt;

法人化後の評価は、さまざまな面から大学等における研究に影響を与えている。これが続くことによって大学の変質が進み、日本の科学研究も思わぬ変化をきたす可能性すらある。この分科会では、学術会議・科学者の立場、評価を受けてきた大学の立場、研究評価をしてきた立場という3つの立場からそれぞれ報告を頂き、立体的に状況把握と議論を進めたい。報告はそれぞれ25分程度+質疑10分程度とし、それをうけて討論を行う。

- 1) 海部宣男氏(放送大学)「基調報告:学術会議の研究評価対外報告(2008)などを中心に」
- 2) 仁田道夫氏(東京大学)「大学における研究から見た評価の現状と問題点」
- 3) 荻上紘一氏(大学評価・学位授与機構)「大学評価・学位授与機構から見た研究評価の現状と問題点」

12:30 ~ 13:30 昼食休憩(第Ⅳ期 第1回理事会)

**3月14日(日)**

**13:30 ~ 16:00 分科会(午後の部)**

**第3分科会 座長:植田健男氏(名古屋大学)(5階ホール)**

**「教育評価の原理を明確にする——原理なき評価の混迷——」**

<趣旨>

教員評価制度が各大学で導入され、また例えば製造業・建設業での品質管理のためのPDCAサイクルが教育等の「質保証システム」として導入されてきています。このような中、教育評価の原理を欠いた評価は大学教育を混迷させています。あらためて教育評価の原理とは何かを考えたいと思います。

- 1) 田中耕治氏(京都大学)「教育評価の新たな地平—質と参加の課題—」
- 2) 藤村宣之氏(東京大学)「心理学の視点による、学力・リテラシーの評価」

**第4分科会 座長:日永龍彦氏(山梨大学)(2階205教室)**

**『国立大学法人評価』は国立大学に何をもたらしているか**

<趣旨>

本分科会では、法人化後の国立大学が目的の異なる複数の評価制度に組み込まれていながら実際の現場ではその区別が十分になされていないという現状認識を基に、基本的な制度の枠組みの確認を行った上で、国立大学法人評価の全国的な動向に関する調査の報告、個別大学の評価作業現場からの事例報告が行われます。これらを通して“「国立大学法人評価」は国立大学に何をもたらしているか”を明らかにし、フロアの参加者も交えて課題解決に向けて提言できることはないか考えていきたいと思います。

- 1) 光本滋氏(北海道大学)「検証された国立大学法人評価制度の問題」
- 2) 佐藤仁氏(九州大学)「大学評価としての『国立大学法人評価』—評価書作成の現場から—」

**16:10 ~ 17:00 総括討論(5階ホール)**

<メモ>